

日々の

暮らしに

香川芳子 香川栄養学園学园长

え／目黒雅也

海辺で過ごした夏



戦争が激しくなる前、昭和10年代前半は私たちにとってはおだやかな日々でした。毎年夏休みには、母・綾は小学生の私以下4人の子どもを連れて吉浜（神奈川県湯河原町の海岸）に連れていってくれました。潮溜まりで巻き貝やカニ、イソギンチャク、小さな魚と遊び、夜は線香花火をして楽しく過ごし、蚊帳の中でふとんを並べて寝ました。ふだんは授業や研究などで忙しく飛びまわっている母と過ごせるうれしい時間でした。

昨年、91歳になる戦前の卒業生から、夏休みに吉浜で行なわれていた出征軍人遺族の子どもたちの

夏期施設に学園から派遣されて、友人と数名で50名ぐらいの食事作りをした話を聞きました。熱源は大きな竈2つ、道具はまな板があるくらいでしたが、なんとかやり遂げたそうです。途中、子どもの手を引いた綾が訪ねたそうで、私は覚えていませんが、教え子の様子が心配で無事にやっているかと確認しに行ったのでしょうか。現在でも学園には学校関係の山の家や海の家、食事作りアルバイトの求人があります。願ってもない実践の場。自然に恵まれた環境で、食事作りで人の役に立てる喜びを実感できるよい機会になっています。